

三沢の清十郎捕物帖 あらすじ

今から十年前、高反城下ほか関八州で悪の限りを尽くした権外道一家。

三沢の清十郎らの活躍により、首領の権蔵他数名は打ち首獄門、手下の蛙淵の鮫造と奈津内の九平達数名は島流しとなった。



清十郎

しかし、清十郎の女房おさよは、清十郎を逆恨みする権蔵の女、お菊に殺されてしまった。

清十郎は、仕方なく幼い我が子を里子に出すが、悲しみを忘れようと次第に酒におぼれる生活に落ちていった。



六助

そして七年後、どんな手を使ったのか、罪状より早すぎる御赦免船で島を出た蛙淵の鮫造と奈津内の九平は、高反城下に舞い戻った。

もう悪事はしたくない九平は、里に残した妹のお京が心配だから帰りたいと、鮫蔵と分かれる決心をするが、一味の新たな悪事の発覚をおそれる鮫造に殺されてしまった。



鮫蔵

鮫造は元権外道一味の薬種問屋赤屋の群鯉と結託して清十郎に復讐すべく画策するが、酒の誘惑を断ち切った清十郎は、同心振田神五郎や子分の六助、そして互いにほのかな思いを寄せ合う鳥追のおしのと協力して、蛙淵の鮫造を崖下に追い落としした。しかし、鮫造の死体はついに見つからなかった。

更に三年の月日が過ぎ去ったある日、おしのが何者かに殺害された。

そして、おしのの妹と名乗る女が現れるが、この女は蛙淵の鮫造にだまされて清十郎を仇と狙う、九平の妹お京であった。

鮫造の巧妙な罠はこれだけで収まらない。

振田神五郎の後任として、清十郎の上役に収まった、桐ノ木紅四郎こと元権外道一味の上頭、長岩左蟬をも巧みに操り、清十郎を執拗につけねらう。



お京

清十郎はこの窮地を切り抜けられるのか。そしてお京は。



左蟬